万葉図書・情報室だより72号

但馬皇女と穂積皇子

人言(ひとごと)を　繁(しげ)み言痛(こちた)み　己(おの)が世に　いまだ渡らぬ　朝川渡る

但馬(たじま)皇女(巻2・116)

―人の噂が多くうるさいので、うまれてはじめて、夜明けの川を渡ることよ。―

但馬皇女は天武天皇の皇女として生まれた女性です。やはり天武天皇の皇子で異母兄の高市皇子の妻であったという説が一般的ですが、実際は異母兄弟の穂積(ほづみ)皇子と恋愛関係にあったとされています。題詞に「但馬皇女の高市皇子の宮に在(いま)しし時に、竊(ひそ)かに穂積皇子に接(あ)ひて、事すでに形(あら)はれて作りませる御歌一首」とあるように、二人の関係が世間に広まってしまったことがわかります。今も昔も世間はうわさ話が好きなのは変わらないようですね。

彼女はとても情熱的な人であったのでしょう。そのような噂の渦中でも堂々と自分の恋心を詠み上げたのが冒頭の歌なのです。

当時、高市皇子の邸宅は柿本人麻呂が皇子の死の際に詠んだ挽歌から、香具山の宮（現在の橿原市・香具山の北麓から西麓に広がっていた埴安の池付近か）にあったことがわかっています。穂積皇子の邸宅も2003年の発掘調査により出土した木簡から、香具山の北約1キロあたりに邸宅があったことが判明しました。この二つの宮は思いのほか近く、それゆえ皇女が衣の裾が濡れるのも厭(いと)わずに、朝の川を踏み分けて駆けるさまがよりリアルに感じられるのではないでしょうか。

藤原京北側　耳成山を望む

但馬皇女は穂積皇子に対してほかにも歌を詠んでいますが、皇子が返した歌は残っていません。ただ一首、皇女が亡くなった際に皇子が詠んだ歌が残るのみです。

降(ふ)る雪は　あはにな降りそ　吉隠(よなばり)の　猪養(ゐかひ)の岡の　寒からまくに

穂積皇子(巻2・203)

―降る雪は多く積もるな。吉隠の猪養の岡に眠っている皇女が寒いだろうものを。―

皇女の墓がある猪養の辺りを見ながら穂積皇子は皇女の死を涙を流して悼(いた)んだと題詞にあります。

家にありし　櫃(ひつ)に鏁刺(かぎさ)し　蔵(をさ)めてし　恋の奴の　つかみかかりて

穂積皇子(巻16・3816)

―家にあった櫃に鍵をかけてしまっておいた恋の奴めが、つかみかかって来て。―

皇子は酔うとよくこの歌を口ずさんだとあります。櫃に鍵をかけてしまっておいた恋心とはいったい誰にあてたものであったのか。昔の恋の思い出を皇子も大事にしていたのか、そうであってほしいと切に願ってしまいますね。

奈良県立万葉文化館は2026年9月に開館25周年を迎えます。万葉図書・情報室も開館当初約1万冊だった所蔵冊数が今では約2倍になりました。

万葉図書・情報室から北側の眺め

司書藤原のおすすめです

小さな図書室ではありますが、これからも訪れる方に愛していただける図書室でありたいと願っています。どなたさまでも飛鳥散策の際にお気軽にお立ち寄りいただければ……と思います。

（司書　藤原文代）

※万葉歌及び口語訳は中西進『万葉集全訳注原文付』による。

〈主な参考文献〉

『万葉にみる女・男』青木生子著作集補巻1（青木生子／おうふう）

『万葉の女たち男たち』（石丸晶子／講談社）

『木簡研究　第26号』（木簡学会）

利用案内

図書室のご利用は無料です。
閲覧でのご利用になります。

開館時間…午前10時～午後5時半
休館日…月曜日（祝日の場合は翌平日）・年末年始・展示替日
コピーサービス…白黒　1枚10円
カラー1枚50円

奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室
奈良県高市郡明日香村飛鳥10
0744-54-1850（代）

R8. 3. 24 VOL.72